

日創研鹿児島経営研究会
20周年記念誌

20 年の歩み



共 共
に に
栄 学
え び
る



NISSOKEN
Kagoshima Management Research Association

日創研鹿児島経営研究会 設立20周年を迎えて

2014年度 13代目会長 石塚 剛

日創研鹿児島経営研究会設立20周年を迎えるにあたって、今年度会長としてご挨拶申し上げます。平成6年12月に設立された日創研鹿児島経営研究会は、今別府初代会長からスタートし、私で13代を数え、20年の年月が経過しました。

会員数は、設立時の27名から67名に着実に増員しております。また、ただ単に増えるのではなく、設立当時のチャーターメンバーも10名在籍し、内7名は歴代会長となっております。さらに親子2代で一緒に勉強している会員も多数となり、本会の歴史の重さを感じます。

会の活動の方でも、全国に誇る結果を出しております。会の魅力度といった点では、現在4年連続1位を更新している「90%以上」の例会出席率、会の活動の結果としての会員黒字率も資料が残っている2003年以降は、ほぼ「80%以上」となっております。記録だけみると、順風満帆に活動してきた様にも感じますが、歴代会長をはじめとした今までの会員が、「一つの理念」、「二つの目的」、「三つの誓い」を愚直に実践してきた結果だと思えます。

私自身は、平成19年の3月入会しました。当時は、肩書きだけは社長でしたが経営のほうは、会長である父に任せて、仕事だけしていれば良いという生き方をしていました。経営者として何を勉強すればよいのか迷っている時に、SA研修に出会い、研修終了後に今別府初代会長に経営研究会に誘って頂いたのが、私のターニングポイントとなりました。その後SC、PSS、TT研修や、職能研修を受講し、経営者としてのスキルを学び、また本会では入会一年目から委員長、事務局長をさせて頂き、会社では失敗することの出来ない、組織の運営の仕方志の高い幅広い年齢層の理事のメンバーと楽しく、学ばさせて頂いております。会員からの仕事の依頼も数多く受注させて頂き自身、経営研究会を一番活用させて頂いている一人であると自負しております。

今回、20周年ということで次の30年、40年に繋げるために記念誌を作成することとなりました。設立当時の色々な資料、映像の整理や、歴代会長へのインタビューを通じて今までの会員の熱い気持ちが伝わって参りました。本会会長として、設立時から今まで先輩会員たちが創り上げてきた会風を絶対に後進させることなく、着実に前進させる使命を与えられていると思えます。これからの10年を発展させるためにも、まずこの2年間、鹿児島経営研究会会員企業100%黒字の実現に向けて、誠心誠意がんばって参ります。

会員の方々には、今回の20周年事業が自社の経営の歴史を振り返り、これからの企業経営を考える一つのきっかけにして頂ければと考えております。

最後に、今回の20周年事業が、先輩の方々、理事の皆様、会員の皆様の多くのご協力をいただき、開催できることに心より感謝申し上げます。



初代会長
今別府 英樹

1994年発足以来、歴代の会長様のご尽力により築き上げられてこられた20年を振り返るとともに、様々な視点で会を盛り上げてきた実績へのご苦労と今後の未来への展望についてインタビューいたしました。

◆ 当時を振り返って

1994年、TT研修中に田舞代表より、地元で学び続ける環境を創りたい…と経営研究会設立の主旨を受け同年8月22日に発起人会が行われ、11月7日に第1回本部理事会開催し全国で39か所(会員数750名)の経営研究会が立ち上がった。

12月には鹿児島県での設立総会が行われ、初期メンバー28名にてスタートしました。…当時は試行錯誤しながら運営していました。即時指名・即時プレゼンの自己表現コーナーもあり、程よい緊張感の中で学び合う雰囲気が出来上がっていききました。

◆ 会長をして良かったこと、又は印象に残っていること

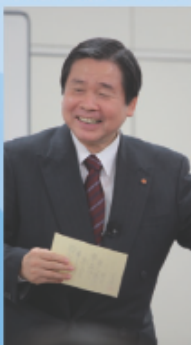
ラッキーなことに初代会長に指名いただいたことで、より良く動機付けられました。2年目に田舞代表を迎え、「あきらめるか、チャレンジするか」の題材にて基調講演をサンロイヤルホテルにて1700名集まる会を開催できました。そこで大勢の皆さんの前でスピーチしたことで、社員さん達から認められた感じを受けたのを覚えています。また当時は、話すことを丸暗記してスピーチしていましたし、今となっては数多くそのような経験させていただいたことで、今の自分があることに感謝している。

◆ 今後について

今後は代を継いでいくように(会社が代を継いでいるように…)ジュニア会があるように、入ったら共に学んで魅力のある会(ブランド力ある会)にしたい。学びたい成長したいと思う人が行列入るみたい…亀のごとく会員の満足と自分たちが学ぶ上で新たな血を入れていきたいと思っています。

日創研鹿児島経営研究会 設立20周年を迎えて

日創研経営研究会 本部長 田舞 徳太郎氏



日創研鹿児島経営研究会会員の皆様、益々のご清栄を心よりお慶び申し上げます。さて、日創研経営研究会も設立以来、早20年目を迎えました。正に「光陰矢の如し」ですが、「緑ありて花開き恩ありて実を結ぶ」この言葉を強くかみしめている今日この頃です。現在、私の予想以上に鹿児島経営研究会が発展を遂げることができました。これもひとえにご研鑽頂きました皆様方の多大なご尽力の賜物です。紙面をお借りいたしまして心よりお礼申し上げます。

日創研の経営目的は申し上げるまでもなく、研修による人材育成を通して「中小企業の活性化に貢献すること」です。創立当時は、今後どのように貢献していけばよいかを問いかけ悩みました。それは可能思考研修(SA・SC・LT(現在のPSV)、TTコース)を卒業された経営者、幹部、社員さんの「継続的な勉強の場」をいかに提供することができるかということでした。

1994年8月22日大阪第二センターで発起人会を開催しましたが、全国から約180名の皆様方に期待をもってご参集頂き、当年11月7日、39会の認証(鹿児島は30番目)、委嘱、約750名の会員により、第一回本部理事会のスタートという経過でした。「一つの理念・二つの目的・三つの誓い」を旗印にどのように学んでいけばよいか、当初は定款の規定も未熟で試行錯誤の本部理事会でした。しかし、熱意に満ちた本部役員、全国の各会長の皆様方の真摯な協議、審議、すばらしいご支援、ご尽力、リーダーシップを賜り、ときに移動理事会なども開催しながら、毎回の如く改善を頂きました。当初はお電話やDM発送のご案内から始めた時代でしたが、本部組織も充実し、組織活性化委員会の活躍、レクチャー委員会、公式教材活用委員会、ありがたう経営推進・実践委員会の各例会が開催され、全国大会や全国経営発表大会も盛大に開催されるまでの発展を遂げて参りました。その間、皆様方のご支援を頂き日本創造教育研究所も年々研修体系を整え、現在では可能思考研修の他、職能研修も「マネジメント養成6か月コース」「業績アップ6か月研修」「コア・コンピタンス経営」の開催ほか、経営ツールも整えて参りました。

しかし、皆様ご存じのようにグローバル化した世界競争時代を迎え、現在の日本の中小企業の経営環境は、少子高齢化の波と共に、筆舌に尽くしがたい苦境下にあります。今後いかに健全な経営活動ができるか、安易な考え方に終わることなく発展させ、国家の繁栄に貢献すべき時であると考えます。今一度、自社経営の質を問い直し、経営研究会への参加意義、存在理由、使命を問いかけ、更なる強力な研鑽の場として発展させなければなりません。

鹿児島経営研究会会員の皆様方におかれましては、事実をしっかりと見据え、自社の発展を通して地域貢献を果たしていく気概を持ちつつ、子孫繁栄、未来の日本の発展に寄与する価値を担うためにも、「更なる学びの場として」ご活用して頂きますことを切に願うものでございます。



2代目会長
小正 芳史

◆ 当時を振り返って

日創研に出逢って、自分にとって自己確立の最後のチャンスと思って学びました。その後、経営研究会が発足し少ない人数の中、すばらしい学びと経験をさせていただきました。今あるのも日創研、経営研究会のお陰とっております。

◆ 会長をして良かったこと、又は印象に残っていること

2代目会長として全国大会を鹿児島で開催したことです。当時250名くらいの参加でしたが、「おもてなし」をテーマに全員手作りのすばらしい大会でした。皆さんに感謝です。会長として「リーダーとは…」を考えさせられたたい想い出です。

◆ 今後について

子供も日創研に、経営研究会にいい学びをしています。親子共々これからも頑張っていきます。そして皆さんと共に…。宜しくお願いします。



3代目会長
伊藤 公隆

◆ 当時を振り返って

日創研経営研究会自体が手探りの状態で、思考錯誤の日々でした。しかし、当時の会員20名は、非常に高い志を持っている方々ばかりで、会社をよくすべく、真剣に勉強に取り組んでいらっしやいました。

◆ 会長をして良かったこと、又は印象に残っていること

経営研究会をまとめて、引っ張って行く事は、会社を運営する事と非常に似ていますので、勉強になりました。当時は、まだ会社では専務の立場でいたのが、当時の経験が現在でも、役に立っております。印象に残っているのは、例会で、きついフィードバックを頂いた事は、非常に印象に残っています。

◆ 今後について

会員企業が100%黒字化できる様な勉強会作りが出来たら良いと思います。



5代目会長
藤安 秀一

● 当時を振り返って

2,000年ミレニアムの記念するときの会長を引き受けました。橋口君の次の会長でした。本来、会長になる意思は、ほとんどありませんでした。この時の、会期は、立候補予定者を立てて、選挙により会長を決めることになっていました。

当然可能思考SA・SC・LT全過程終了していること。出席率云々。創立時から、3代目会長までは、マネーメイクで稼いだ資金や 会員の入会金、年会費、全国大会登録取益金で比較的潤沢に資金があったことを記憶しております。4代5代6代歴代会長は、資金 枯渇の中で会運営を強いられました。この年に、TT受講(田舞代表との交換条件)、父の大病、全国味噌青年部会長、等公私共に忙しくなかなか、経営研究会に力を傾注することができませんでした。合わせて、事務局長が吉田君で彼も私と同じTT受講で会長・事務局長共々の参加です。会議の式次第にもおかし込み、当時メールが普及してなかったので出欠は、FAXその出欠の案内も届かない有様で随分歯がゆい思いをしたものでした。お陰で少しは、我慢強くなれたのもこのせいかも。今は随分素晴らしい会運営になっていますが、20年を振り返ると草創期・衰退期・成長期・第2成長期を辿っているように思えます。「ローマは1日にして成らず」

● 会長をして良かったこと、又は印象に残っていること

お金がなく、例会での参加の際に皆さんに手弁当をお願いしたこと。
愛媛の全国大会に従来の参加者よりかなりのメンバーの参加を頂いたこと。(補助金を通年より総額増になった)
従来のメンバーがアドバイスや意見や協力をして頂き、何とか会を回すことができた。
それまで、華やかなサンロイヤルホテルから吉田さんの事務所を借りての例会であった。

● 今後について

共に学ぶということでは、メンバーを増やすことから質に転換していく方向を見出すことが必要である。
ただ、可能思考を受講しただけで職能スキルは、未熟では、欠落した経営者になります。常に人間力を磨き、経営に必要なスキルを身につける事を推し進めていくことが大事だと思います。一部学び続けている方々は、ありますが願わくは同じような気がしております。その方々は、新たな職能スキルに挑戦しているみたいですが、新しい方々へ職能スキルをアプローチ、推し進めてみては、如何なのでしょう。メンバー同士で温度差が出てきているように感じます。



6代目会長
崎元 誠

● 当時を振り返って

私が会長をした時は、転換期にあったと思います。創業期から事業がマンネリ化してきて、何か変わらなければいけない時であったと思います。その時に原点に帰ることが大切であり、SC研修での「行動こそ真実」という学びを真摯に受け止め、夢中になって つとめさせていただきました。2ヶ月に1回の例会では疎遠になってしまうということで、例会を毎月行いました。新たに入った会員も増えてきて会員のことがよく知らないということで、月1回という例会で限られた時間(2~3人)に経営発表を行いました。かなり、ハードな例会だったと思います。また、中崎公認会計士による財務研修会をまた、喜田寛先生による講演会を行いました。忙しいでしたが充実した1年間を送ることが出来ました。

● 会長をして良かったこと、又は印象に残っていること

日創研は経営について共に学び、共に会社をより良くして築けるための研究会です。その一番の学び、経験を会長自身でできたことです。「すべての責任は会長にある」という責任感を持ちながら、総会、例会、各委員会、研修会すべてが会長を経験して初めて得るものでした。講演会を前にして40歳代で会を代表して述べるプレッシャー、新たな企画の経営発表例会、研修会等それなりの結果を出せたこと、そして会員が日創研鹿児島を盛り立ててくれたことが私として一番嬉しかったことです。

● 今後について

臨床試験での評価項目として「真のエンドポイント」「代替のエンドポイント」があります。例えば抗がん剤でがんの縮小率(奏効率)が「代替のエンドポイント」であり、生存期間の延長やQOL向上が「真のエンドポイント」になります。今、日創研鹿児島は会員数も増え、事業も拡大し、深化してきています。様々な事業を行う時、事業の「代替のエンドポイント」を考え、その先にある日創研鹿児島の「真のエンドポイント」を描くことが、これからの時代も環境もそして中も外の人間も変わるときには大事だと思っています。そのことが「原点に帰る」ことでもあると感じました。



7代目会長
梶 正治

● 当時を振り返って

無い無いづくしのスタートでしたが、今別府初代会長のリーダーシップの基、ひとり役一丸となり全力で取り組んでまいりました。
いきなりテーマを与えられての自己表現プレゼンは、とてもとても楽しいひとりで震えが止まりませんでした。事務局を担当いただいた今別府産業の社員さんにありがとう。

● 会長をして良かったこと、又は印象に残っていること

「共に学び ともに築ける」の理念に共感した活動を通じて、何にも変え難い多くの同志との出会いと学びをいただき、何事も継続することの大切さを教えられました。

● 今後について

後継経営者の学びの場、情報共有の場として、広く異業種交流ができるよう、数と質の向上に努めて参ります。



8代目会長
米 盛庄 一郎

● 当時を振り返って

平成16年・17年に会長を担当しました。平成6年に発足した経営研究会も10年を迎え「振り返って10年 今革新のとき」の方針でスタートしました。会員数は40名でした。翌年は「10年後 あなたは誰に何を託すのか」の方針で会を進めました。会員数は43名でした。

● 会長をして良かったこと、又は印象に残っていること

2年間とも出席率1位で本部理事会でも表彰されました。

● 今後について

会員一人一人会長です。ハイ喜んでの心意気で会を盛り上げていきましょう。



9代目会長
飯田 祐里 華

● 当時を振り返って

伝統と新風のブレンドを目標に掲げ、それに基づき委員会を立ち上げ、委員会ごとの勉強会委員会ごとの懇親会など新たな試みをして新しい仕組み、考え方もとりいれ少しずつ会の雰囲気を変えることができました。今の経営研究会の土台になれたのではと思います。

● 会長をして良かったこと、又は印象に残っていること

出席率日本一をとれたこと!! 会の問題も自社の問題も状況は違えが原因・要因は人が作る。
それを痛感したことで人材育成の大事さあらためて考えられた。
応援援助してくださる方がいてくださったことが 心強かった。うれしかった。

● 今後について

異業種幹部交流会、勉強会を取り入れていただきたい。会の活性化。



10代目会長
塩 倉 宏

● 当時を振り返って

2008年から2年間会長を務めました。飯田前会長から出席率全国一位を引継ぎ、今別府監事より出席率は、「会の魅力度だよ!」、プレッシャーをかけられスタートしました。始まるあつという間の2年間、しかし楽しく学び多き2年だったと感謝しています。
当時は40名弱の会員で、半数以上で全国のイベントにもこぞって参加して、夜中まで経営の悩みや、夢をよく話していました。なかなか職場では話せないことを、仲間と場の提供があって相談できて、また元氣や勇気をもらっていました。

● 会長をして良かったこと、又は印象に残っていること

全国一の出席率の中、チャレンジだ!! といって、全国の経営発表大会の前日に、大阪で鹿児島島の例会を企画しました。数時間の大阪滞在や一日とんぼ返りする方などのおかげで、半数以上のメンバーが、大阪笑面の明徳庵に集合してくれました。会員の一人一人の方に、大変感謝した取り組みとして、心に残っています。
毎月の理事会を通じては、会議でメンバーの意見を聞きコンセンサスを得て、物事を進めていく重要性を大いに学びました。また、例では理事会などで決定したことをメンバーに伝えること、その時々協議の熱意を伝えること、の難しさなども会長として体験させてもらいました。
私の事務所の職員が、「所長が日創研の会議の後や出張して帰ってきた朝の朝礼は、元氣なので嬉しい!」と言われたことがありません。とても励みになった出来事でした。

● 今後について

日創研の鹿児島島の会長を務めた後に、業務の中で全国の会議に出席したり、九州の会議の議長役に成ったりする機会が訪れます。(これも偶然ではなく必然なのかな?) そんなときに、日創研で会長をやって良かったと痛感しました。鹿児島島の理事会よりも緊張する会議は、そんなに多くはないと思います(笑)。実務では、失敗は許されないことも、日創研では、学びの場として提供してくれます。皆さんも是非、理事メンバーになって今以上に熱く学びましょう! これからもよろしくお願ひします。感謝!!



11代目会長
田中 純貴

● 当時を振り返って

ある日、突然直前会長が訪問され「次年度会長を引き受けて欲しい」との事でした。日創研で学んでいて「出来ません」とは言えず不安でしたがお引き受けしました。

例会・講演会、その他日創研の本部会議等鹿児島を背負っての緊張の連続でした。会員さんの出席率・退会等心配もありましたが、今までの歴代会長に恥じぬよう一所懸命でした。各委員長、会員様の協力で無事終えられて感動と貴重な体験をさせて頂きました。

● 会長をして良かったこと、又は印象に残っていること

鹿児島経営研究会は出席率全国1位を誇っていました。これだけは死守しなければとの思いで2年間1位を達成出来た事は感謝でした。各委員長、会員様のお陰で2年間頑張れましたが、自分のリーダーシップ不足を痛感いたしました。

● 今後について

経営研究会は、各企業の業績向上が最大の目的であり、会員相互の学びで全会員企業の業績が上がるよう今まで以上に切磋琢磨する会であるように皆で努力したいと思います。



12代目会長
肥後 貴史

● 当時を振り返って

私の就任時にはすでに、歴代会長を中心に「すべては学びである」という「健全な会風」を創りあげてくださっていました。私を含め理事メンバー全員が全力投球し、例会・委員会など企画運営しておりましたが、この「会風」なくして「出席率2年連続全国一位」は達成できなかったと思います。任期中の2年間は「全会員100%黒字」という大目標をぶれずに目指してきました。そのための理事会であり、例会であり、委員会であり、ズバットセミナーでした。そのことを理事全員が共有しバクトルを合わせてくれたからこそ、就任時の黒字率83.9%→2年後92%という素晴らしい成果が生まれたと思います。

● 会長をして良かったこと、又は印象に残っていること

一番印象に残っている事は、特別講演会400名の来場者の前で会長挨拶をさせて頂いたことです。大きな自信になりました。また、会長という「やる場」を与えて頂き、何事にも真剣に、慎重に、寛大に考える習慣が身についたと思います。「役が人を育てる」とよく耳にしますが、多少なりとも自己の成長を実感できました。新規会員の増加や、若手会員の活性化などもあり、会員の若返りも進んだように思います。会長任期最後の総会ではサプライズの演出もしていただき、会員の皆様の溢れんばかりの愛を感じることができました。「会長をして、本当に良かった！」一生忘れない思い出(プレゼント)をいただきました。

● 今後について

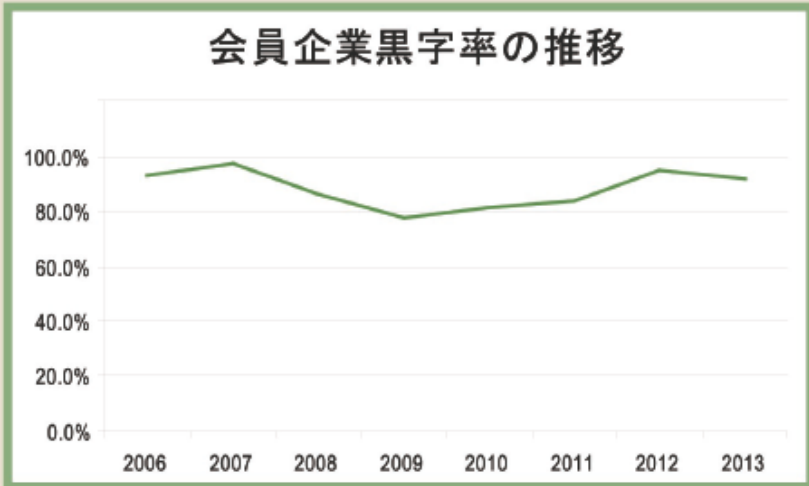
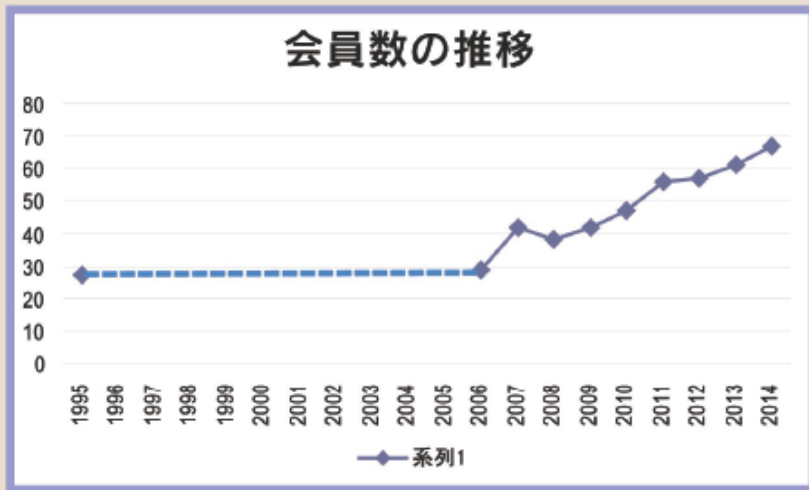
そもそも何らかの会に入会する目的は最終的には「自社の業績を上げたい」という目的に行き着くと思います。他団体でそのような目的を掲げている会は皆無です。そのような中で、経営研究会の理念は「共に学び 共に栄える」であり、自社の業績UPを実現するための会、直球と真ん中の会です。他にはない素晴らしい会だと思います。経営研究会に入れば、必ず業績が上がる!! と言われるくらいの会にしていきたい、会員全企業100%黒字を実現し、こんな会にはない”新聞に取り上げられるくらいの会””行列のできる経営研究会”にしていきたいと思っています。今後は一会員として全力で関わって参ります。会長時代の2年間を一言で言うと”楽しかった!”の一言に尽きますが、最後に石塚新会長へ本音のメッセージを贈ります。“本当は会長を譲りたくはなかった・・・”

年	会 歴	会員数	会員黒字率	外部環境
1994年	日創研鹿児島経営研究会発足			リレハンメルオリンピック 関西国際空港開港
1995年	初代会長 今別府 英樹	28	-	阪神大震災 製造物責任(PL)法施行 地下鉄サリン事件
1996年		-	-	アトランタオリンピック O-157が全国で発生 資金量世界最大の東京三菱銀行誕生
1997年	2代目会長 小正 芳史 全国大会in鹿児島開催(237名動員)	-	-	1997年消費税5%導入 香港中国に返還 "山一証券ほか金融機関の破綻相次ぐ"
1998年	3代目会長 伊藤 公隆	-	-	長野オリンピック 金融ビッグバンがスタート 明石海峡大橋完成
1999年	4代目会長 橋口 隆	-	-	EC統一通貨ユーロ誕生 国旗・国歌法が成立 NTTドコモモードのサービス開始
2000年	5代目会長 藤安 秀一	-	-	"企業倒産の負債総額約24兆円で過去最悪" 介護保険制度がスタート 神橋サミット開催
2001年	6代目会長 崎元 誠	-	-	アメリカ同時多発テロ "USJ(3月)、デズニーシー(9月)閉園" 国内初のBSE(狂牛病)確認
2002年	7代目会長 梶 正治	-	-	"日朝首脳会談(9月)拉致被害者5人帰国" 日韓共催サッカーW杯 公立学校の完全週休二日制実施
2003年		-	-	日経平均7607円、20年前の水準に(4月) イラク戦争勃発(3月)、中東でテロ続発 中国より新型肺炎SARSの感染広がる
2004年	8代目会長 米盛 庄一郎	-	-	中越地震他自然災害多発。スマトラ島沖地震 トヨタ平成15年度純利益日本初の1兆円超 アジア各地で鳥インフルエンザ広がる
2005年		-	-	"日本の総人口初の減少(1億2776万人)" 解散総選挙で自民圧勝(9月)、郵政民営化法案可決 中国人民元、初の切り上げ
2006年	9代目会長 飯田 祐里華	29	93.1%	ライブアショク、新興市場株低迷 会社法施行 "2002年1月からの景気拡大がいざなぎ景気を抜く" サブプライムローン問題(世界金融危機)発生
2007年		42	97.6%	トヨタ世界生産台数でGMを抜き世界第一位に "食品会社の偽装事件相次ぐ" 米国リーマンブラザーズ経営破たん
2008年	10代目会長 塩倉 宏	38	86.5%	"北京オリンピック(8月、5月には四川省地震)" 中国製ギャザーによる中毒事件
2009年		42	78.0%	民主党、衆院選で圧勝し政権交代 米GM、経営破綻 裁判員制度スタート
2010年	11代目会長 田中 純貴	47	81.4%	"中国のGDPが日本を抜き世界第二位に" 宮崎で家畜伝染病口蹄疫発生 日本航空会社更生法適用、過去最大の破綻
2011年		56	83.9%	欧州(ギリシャ)の経済危機が深刻化 九州新幹線全面開通 東日本大震災M9.0と福島原発事故発生
2012年	12代目会長 肥後 貴史	57	94.7%	衆院選で自民圧勝、政権復帰 竹島、尖閣諸島の領有権問題が顕在化 東京スカイツリー開業
2013年		61	92.0%	参議院議員選挙で自民勝利、ねじれ解消 アベノミクスによる円安株高 2020年東京オリンピック決定
2014年	13代目会長 石塚 剛	67	-	

Mission

会員数と会員企業黒字率の推移

自社の業績を良くするという目的で集まった仲間達が、毎月の例会・委員会・講演会を通して真剣に学んでまいりました。
20年という歴史の中、着実に会員数を伸ばしつつ、高い黒字率をキープしてきました。



Memory

発足当時の「日創研鹿児島経営研究会」

